RI2760地区「広報・雑誌委員長会議」開く

WFF開催に協力を

国際ロータリー（RI）第2760地区は、「2014～15年度第2回地区内広報・雑誌委員長会議」を開催した。地区内全クラブの広報・雑誌部門担当委員長に「ロータリーの公共イメージの向上」を目指す広報活動の促進と、10月24、25の両日に「ロータリー・デー」として開催する「第3回WFF（ワールド・フード＋ふれ愛フェスタ）」を各クラブの広報活動として積極的に取り組むことを求めた。また、女優でロータリー親善大使・公共イメージコーディネーターの司葉子さんが講演した。

約100人が出席した本年度の第２回地区内広報・雑誌委員長会議

会議は名古屋市中村区の名鉄グランドホテルで開かれ、地区内全クラブの広報・雑誌担当委員長、地区広報委員会のメンバーら約100人が出席した。

初めに近藤雄亮ガバナーの代理として高須洋志地区幹事があいさつし、「広報委員会の基本的な役割はロータリーの情報をロータリアン以外の人に伝えることとされています。その手法についてはRIのホームページに広報に関する多くの資料が載せられているので、ぜひ活用していただきたい。ロータリーの広報、PRにはいろいろな手段があります。それらをうまく使ってロータリアン以外の人にロータリーを正しく理解されるように努力していただきたい」などと言明。対外的な広報活動への取り組みを求めた。

片山主水地区広報委員会カウンセラー（パストガバナー）は「ロータリーの広報活動は、RIが提唱している戦略計画の中の優先項目の一つに『ロータリーの公共イメージと認知度の向上』として打ち出されており、これに基づいて各地区各クラブが取り組んでいます。特に第3回WFFは、当地区が2年前から取り組んで公共イメージと認知度の向上に大きな役割を果たす活動として全国の各地区からも注目と称賛を集めているもので、各クラブでは理屈抜きに積極的に取り組んでいただきたい」と話し、第3回WFF開催への協力を呼びかけた。

篭橋美久地区広報委員会委員長からは昨年11月に開催した第2回WFFの成果が紹介され、「昨年は広報委員会を中心に地区の各委員会事業として取り組み、WFF自体の成果とともに各委員会間の連携が強化されるなど大きな成果を上げることができました」と強調。第3回の開催に向けて「WFFは広報活動の道具であり、各クラブは積極的に活用していただきたい。広報活動については地区のホームページにも多くの資料が掲載されているので、ぜひ活用してほしい」と述べ、各クラブに広報活動への積極的な取り組みを求めた。

親善大使の司葉子さん講演　積極的な広報呼びかけ

続いて、司さんが「日本の広報のあり方について」をテーマに講演した。まず1954年のデビューからの経歴を紹介したDVD「花のながれ」を上映。その後、「ロータリーは〝陰徳〟の社会が長かったようですが、今は大きく転換して外に向かってロータリーの良い点を周知し、利用していただくことに努めています。私は2006年にRIから第2ゾーン公共イメージコーディネーターを依頼され、一種の動く広告塔としてロータリーのイメージ向上に努めてきました」と、これまで取り組んだ広報活動を振り返った。

講演する司葉子さん

さらにWFFの話題に触れ、「名古屋で行われたロータリー・デー（WFF）が全国で大変な評判になっており、来年の広報活動の目玉はロータリー・デーが良いというような声も聞いています。素晴らしい企画で、一般の人が参加できることが広報活動として一番メリットがあると思います。当地区から始まったロータリー・デーが全国に広がることを期待しています」と、WFFを高く評価するとともに今後への期待を寄せた。

講演後、報告議事に入り、志水ひろみロータリーの友編集委員会地区代表委員代理が「ロータリーの友」の歴史、現状などを踏まえながら、「ロータリアンが情報を知り得る手段として毎月発刊されています。新入会員の勧誘にも大いに役立つものでぜひとも活用し、各クラブの活動を積極的に投稿していただきたい」と、ロータリーの友の活用を呼びかけた。

福田哲三WFF実行委員会副委員長はビデオを上映してWFFの経緯、現況などについて説明。「WFFの目的は、ロータリーの奉仕活動のための資金づくりと公共イメージの向上であり、一昨年と昨年に2回開催しました。なかでも昨年は『ジャパンロータリー・デー』の行事として開催し、全国25地区のガバナーも来場されるなど高く評価されました。収益金は約300万円で、200万円をカンボジアの水道事業と教育事業への支援金、100万円をポリオ撲滅活動資金としました」と述べた。

さらにパネル展示によるロータリー活動と各クラブの活動のほか、協賛企業の広告展示やロータリーファミリーの協力活動などを紹介しながら、「資金づくりの方法は出店料収入、協賛広告、協賛チケットの販売などで、今年もぜひご協力いただきたい。WFFは地区広報委員会が中核となって取り組むことになっており、ご協力をお願いしたい」とWFF開催への理解を求めた。

最後に桐渕利次ガバナー補佐が「本年度の広報部門はロータリーの公共イメージの向上のために重要な役割が求められていましたが、皆さん方の協力によってロータリー・デーの大成功を納めることができました。今後も会員一人一人が広報活動に携わるように努めていただきたい」と話した。